

■ ISO/PC253 「処理排水の灌漑利用」の第3回会議に日本代表团として出席

水利工学研究領域 水環境担当 主任研究員 浜田康治

※ISO/PC253 の概要は、農村工学研究所メルマガバックナンバーの 14 号（平成 23 年 5 月 31 日、<http://nkk.naro.affrc.go.jp/merumaga/14/14.html>）をご覧ください。

10 月 24 日・25 日に、フランス共和国パリ市にあるフランス規格協会(afnor)ビルで開催された国際標準化機構 (ISO) 第 3 回「下水処理水の灌漑利用に関する規格化プロジェクト委員会 (PC253)」に出席しました。会議には 6 カ国から 15 名の参加があり、日本からは国土交通省、民間団体などから 4 名が参加しました。

今回の会議ではガイドライン案に対して事前に提出されていた修正意見やコメントを改めて各国が説明したのち、1 つずつ丁寧に議論されました。特に安全性に関する議論では、本ガイドラインの目的が「再生水を安全に灌漑利用すること」であり、これにより作業員や周辺環境の安全を確保するとともに、作物の安全性を十分に高めるためのものであるため、最終的な作物の安全確認に関しては国際食品規格 (コーデックス規格) などの基準によるチェックが必要との認識が代表間で確認されました。

予定通り 2013 年のガイドライン完成を目指すには作業速度を高める必要があるため、委員会の中に編集作業部会を発足させることが決まりました。編集作業部会が今回の会議での議論結果をガイドラインに反映させ、新しいガイドライン案が 2012 年 6 月までに全参加国に配布される予定となります。新しいガイドラインが示された後、第 4 回会議が 2012 年夏にメキシコで開催される予定です。



写真 1 会場となった afnor ビル
ISO/PC253 以外にも様々な
規格会議が開催されていました



写真 2 会議の様子
画面の左列最奥が Tarchitzky 議長
右列奥に日本代表